

(配布先)
支店長・副支店長
施工担当部署長、建設所長
副部長・副所長・統括工事長
安全長・安全主任
工事長・工事主任
関西支店取引業者災害防止協議会

事務連絡（安-2024-63）
令和 7 年 3 月 5 日

関西支店 安全環境部長

枯れ草延焼等による火災防止について（要請）

先日、【別紙 1】のとおり、他支店高速道路新設作業所において、エンジンカッターを使用し、側溝用の二次製品を加工中に発生した火の粉が、周囲の枯れ草に引火し、延焼させるという事案が発生しました。幸い、作業所における散水車を使用した消火活動により鎮火させることができましたが、消防署をはじめ、関係者に多大なご迷惑をかけることとなりました。

春季火災予防運動期間の初日でもあり、岩手県や山梨県の大規模山林火災も報じられているなかで、このような火災が発生したことは誠に遺憾です。

については、【別紙 2】の事務連絡(安-2024-61)を再確認するとともに、作業所における火災防止に細心の注意を払うよう再徹底願います。

※この事務連絡は、事務連絡（安環安）24-43(令和7年3月3日)安全環境本部発行に基づき作成しました。

以 上

(火災) エンジンカッターで側溝二次製品切断中に発生した火の粉が枯れ草に延焼

◇ 発生日時： 2025年3月1日 (土) 午後1:30分頃



【発生状況】

高速道路新設作業所で、側道整備の横断側溝敷設作業中、エンジンカッターを用いて側溝の二次製品の切断中に発生した火の粉が枯れ草に引火し延焼した。

(配布先)
支店長・副支店長
施工担当部署長・建設所長
副部長・副所長・統括工事長
安全長・安全主任
工事長・工事主任
関西支店取引業者災害防止協議会

事務連絡(2024-61)
令和7年2月21日

関西支店 安全環境部長

令和7年「春季火災予防運動」の実施について(要請)

春一番などの強風による火災の発生しやすい季節を迎えるにあたり、消防庁主唱による令和7年「春季火災予防運動」が実施されます。

当社作業所においては、別紙1のとおり、季節を問わず溶接・溶断作業等での火気使用管理の不徹底等による火災発生が絶えません。他支店で1月9日に、スプレー缶にペンチで穴をあけガス抜き中、スプレー缶内のガスに引火する事案があり、また、同23日には、スプレー缶廃棄の際、ガスをフレコンパックに噴出中、何かの火花がフレコンパック内のガスに引火した事例がありました。どちらも静電気が原因と思われます。

これを機に、作業所における防火管理体制及び自衛消防隊組織の整備とその機能・役割の再徹底、並びに下記事項の実施を徹底するよう要請します。

特に、竣工間際の火災はダメージが大きく、得意先に多大なご迷惑をかけるだけでなく、社会的信用の失墜にもつながりますので、火災防止に向けて隙のない管理の徹底をお願いします。

記

1. 期間 令和7年3月1日(土)～3月7日(金)

2. 全国統一防火標語(令和6年度)

“守りたい 未来があるから 火の用心”

3. 作業所の重点実施事項

(1) 次の事項の見直しと再徹底

- a. 改修工事及び増築工事の既存取合部における「火なし工法」採用の徹底
- b. 溶接・溶断等の火気使用作業時の防火対策と終了時の点検・確認、及び相当時間経過後の点検体制の確立
- c. 発泡スチロールの使用・保管に関するルールの徹底
- d. ウレタンフォーム施工済み場所での火気使用厳禁の徹底
 - ・火なし工法の徹底もしくは十分な離隔距離確保
 - ・照明器具、仮設電線等熱源となるものを近づけない
- e. 事務所・休憩所・宿舍等の防火対策
- f. 消火設備・器具の適正配置と保守管理
- g. 不審火対策(特に夜間・休日の部外者侵入阻止対策)
- h. 火災発生時の即時119番通報の徹底
- i. 充電器コードリールによる火災防止(破損物の使用禁止、周囲の可燃物の除去)
- j. スプレー缶の廃棄時の可燃性ガスによる火災防止

(2) 防火点検表(別紙2)を利用した一斉点検並びに通報・避難及び初期消火訓練の実施

以上

※添付資料：過去の重大な火災事例

参考資料：①安全部ホームページ

→ 各種資料 → [ウレタン等の火災防止\(示達10-13\)](#)

② [事務連絡 23-09](#)

③ [事務連絡 24-35](#)

社外秘

最近の当社作業所での火災発生状況 (過去 5 年間・計 16 件)

(安全環境本部へ報告があったもの)

R7.2.14 現在

	発 生 年 月 日	発 生 状 況	原 因
1	3. 3. 16 15:20 頃	ガス溶断作業による火花で空調室外機が火災	・火花養生の不備
2	3. 12. 9 14:45 頃	現場内ユニットシャワー及び仮設トイレでボヤが発生	・不審火(消防署調査)
3	4. 4. 12 10:30 頃	縦樋受金物溶接の火花が腰壁型枠内の打継目地に引火	・火花飛散防止措置不備
4	4. 4. 26 10:38 頃	仕上床材を貼るため塗布した接着剤が揮発し何らかの原因で、揮発した気体に引火	・不明(消防署調査)
5	4. 6. 6 10:15 頃	H鋼を溶断したときの熱を持ったボルトが、残置されていたプラスチック製カバーに落下し、発火	・養生の不備
6	5. 2. 16 14:30 頃	鉄骨のガセットプレート溶接中、養生シートの隙間から火の粉が落ちて下階のイソバンド養生フィルムに引火	・養生の不備
7	5. 2. 20 13:50 頃	冷温水配管 SGP 旋盤機でネジ切り作業中、スパークが発生し、周辺に置いてあったウエスに引火	・可燃性物の放置
8	5. 2. 27 16:35 頃	デッキをガス切断中、火花が、足元に置いてあった鋸打機のガスに引火	・可燃性物の放置
9	5. 4. 24 13:30 頃	敷鉄板のずれ止め用にプレートで溶接していたものをサンダーで切断中、火花が枯草に引火	・養生の不備
10	5. 5. 20 7:00 頃	作業開始前、工具を入れてある鉄箱とラックから出火。	・充電器からの発火
11	6. 2. 9 19:20 頃	フォークリフト発火、プラズマ切断の火花から引火	・養生の不備
12	6. 4. 18 17:10 頃	設備電気室内でイタチの死骸を発見し、これを除去しようとしたところ死骸が充電部に接触し、スパークによる火花が発生。作業員の作業服に引火。	・通電を遮断しないまま作業
13	6. 9. 26 17:30 頃	溶断時の火花が 39 階から 21 階まで落下し、21 階の断熱材に引火	・養生の不備
14	6. 10. 10 11:00 頃	Fデッキ裏面のリブを溶断した熱で、断熱材が溶け、発生した黒煙で壁面・天井面を汚した。	・可燃性物の放置
15	7. 1. 9 18:30 頃	スプレー缶にペンチで穴をあけ、ガス抜き作業中、缶内のガスに引火	・静電気と思われる火花の引火
16	7. 1. 23 11:05 頃	スプレー缶のガスをフレコンパックに噴出中、何かの火花がフレコンパック内のガスに引火	・静電気と思われる火花の引火

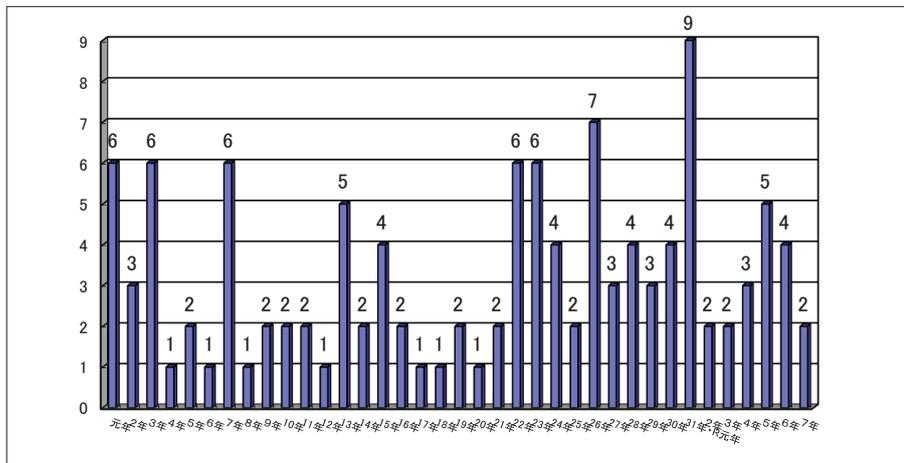
当社発生火災の分析

**** 過去37年間で119件発生 ***
(平成元年～令和7年)

R7. 2. 14現在

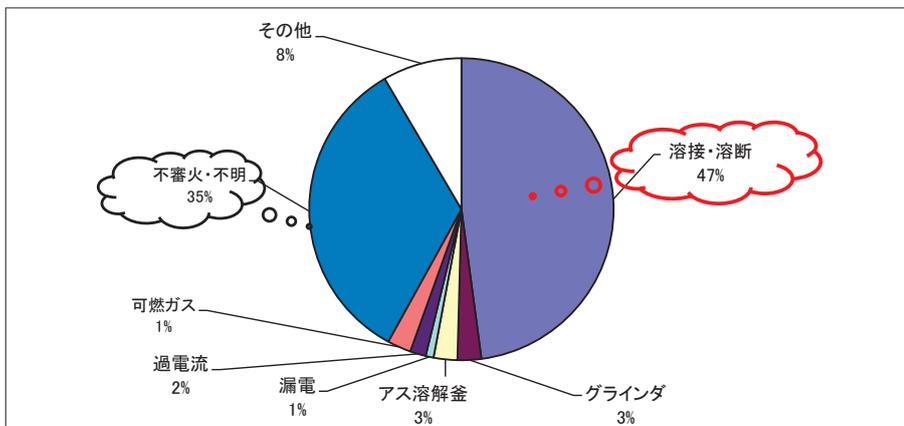
(1) 発生推移

年	発生件数
元年	6
2年	3
3年	6
4年	1
5年	2
6年	1
7年	6
8年	1
9年	2
10年	2
11年	2
12年	1
13年	5
14年	2
15年	4
16年	2
17年	1
18年	1
19年	2
20年	1
21年	2
22年	6
23年	6
24年	4
25年	2
26年	7
27年	3
28年	4
29年	3
30年	4
31年・R元年	9
2年	2
3年	2
4年	3
5年	5
6年	4
7年	2
計	119



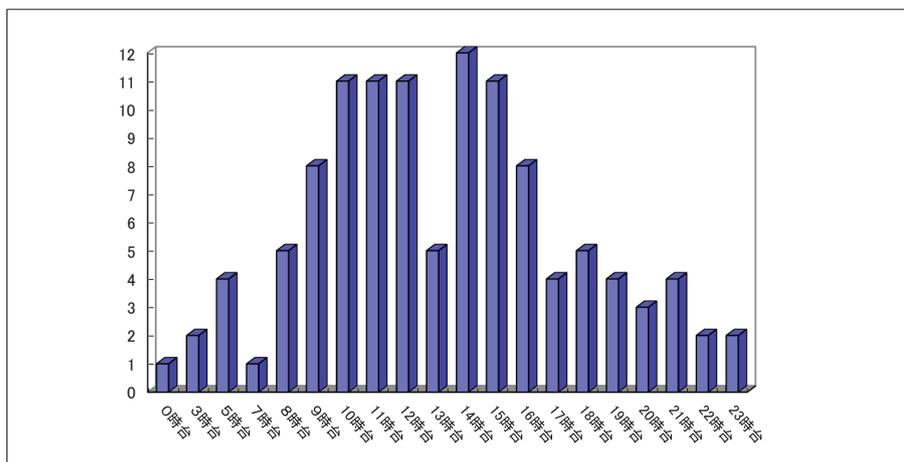
(2) 発生原因

原因	発生件数
溶接・溶断	57
グラインダ	3
アス溶解釜	3
漏電	1
過電流	2
可燃ガス	3
不審火・不明	40
その他	10
計	119



(3) 発生時間帯 (時間不明5件を除く)

時間帯	発生件数
0時台	1
3時台	2
5時台	4
7時台	1
8時台	5
9時台	8
10時台	11
11時台	11
12時台	11
13時台	5
14時台	12
15時台	11
16時台	8
17時台	4
18時台	5
19時台	4
20時台	3
21時台	4
22時台	2
23時台	2
計	114



<添付資料> 過去の重大な火災事例

【当社事例1】

発生日時：平成23年5月18日（水） 午後1時30分頃
発生場所：冷蔵庫棟 1階

【火災の発生状況】

- ・キーストン天井吊ボルトの振れ止め補強溶接作業中、溶接火花が落下し、1階スラブ上に仮置きしていたスタイロフォームに引火し、燃え広がった。
- ・溶接火花はキーストン天井と区画壁との隙間、もしくは吊ボルトの切り欠き部分の隙間のいずれかより落下（詳細は調査中）
- ・13:30頃 火災発生。
作業員を避難させるとともに、消防署に連絡
- ・14:00 消防車が到着し消火活動開始
- ・17:40 消防車放水作業を一旦中断
- ・18:30 放水作業再開
- ・20:30 鎮火



【当社事例2】

火災事故 2010.11.26(金)

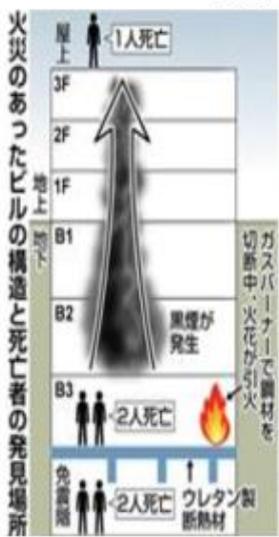


地下基礎工事中、型枠建込用のセパ受け金物を溶接取付中、レベルコンクリート下に打ち込んでいた発泡スチロールに引火した。
消火器で消火作業をしたが鎮火せず、10分後 消防車が到着し消火した。
発泡スチロール 約30m³焼失 場内各所及び隣地建物2棟 煤汚れ

<添付資料> 過去の重大な火災事例

【他社事例1】

他社 火災事故 2018.7.26 (木)



火災のあったビルの構造と死亡者の発見場所

地上 地下

3F 2F 1F

B1 B2 B3

免震階

1人死亡

2人死亡

2人死亡

風煙が発生

ウレタン製断熱材

ガスバーナーで鋼材を切断中・火花が引火

都内のデータセンター新築工事において、地下3階で鉄骨部材を切断中、溶断火花が床下（免震階）天井面の断熱用発泡ウレタンに着火した。（報道による）作業員3人のうち、火気使用者は1人、1人は飛び散った火花の消火役、もう1人は下階で火花監視役、火が付いた直後、水や消火器で消火したが間に合わなかった。（作業員5名死亡、42名負傷（内25人重傷））

【他社事例2】

他社 火災事故 2022.10.25



建替え工事中の地方公共団体庁舎(25階建て)において、24階の人荷用エレベーターロビーで天井の鋼板をガスバーナーにより切断した際、天井裏に敷き込んであった断熱材（ポリスチレンフォーム）に着火し燃焼した。可燃物である断熱材が目視できない場所でガス切断作業をしたことが要因(当該地方公共団体発表)。火災発生時、24階には10人の作業員がいたが負傷者はいなかった(報道発表)。